

I 先行的神の恵み→神から「信仰」という賜物が与えられている恵みを心から感謝したい。この世に誰一人として、自分の力、知識で主を信じる信仰を持った人はいない。『聖霊によるのでなければ、だれも『イエスは主です』と言う（信仰告白）ことはできません』Iコリント12：3。「恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です」エペソ2：8。感謝！「神であり救い主であるイエス・キリストの義によって、私たちと同じ尊い信仰を受けた方々へ」Iペテロ1：1

II 主への信仰を試練の中で生かす

1. 本日の聖書の劇的な出来事を通して、信仰に基づく実生活の大切さ教えらる。神は、キリスト者生活を始めさせて下さる。そこで、私達は、信仰、主への信頼をもって日常生活を歩む。本日学ぶのは、「私たちは見えるものによらず、信仰（主への信頼）によって歩んでいます」（IIコリント5：7）という事。

2. 本日の箇所 of イエスのご性質を見たい。舟の中でイエスは疲労感を覚え、疲れて眠り込んでしまわれた。ここで教えらるるのは、イエスは、偉大な神であられたが、私たち人間の罪の為に十字架で死ぬ為に本当に人間となられた。また、私たちの疲れを理解する同情者、思いやりのある大祭司、救い主となる為に、疲れ、悲しみ、誤解、試み、苦しみを十分経験された。主はあなたの疲れ、苦しみの理解者。感謝！「イエスは、自ら試みを受けて苦しまれたからこそ、試みられている者たち（私達）を助けることができるのです」ヘブル2：18。イエスは人であり、また同時に神。主イエスは自然界に命令を下し、風を押し止め、海の波を静めることが出来た。主は、天地万物の創造者であり、天と地のすべての出来事の支配者である。主は、神であり人である。二つの性質が一つ的人格の中にある。二つの性質が、混ざり合うことなく、一つ的人格の中に存在している。主は神であり人であるので、神と人の真の仲介者、大祭司（とりなす方）に唯一の相応しいお方。私達の痛み、苦しみ、悲しみを理解して下さるお方。

III 本日の出来事がマタイ、マルコ、ルカの三つの福音書に記されてる事を感謝したい。福音書の中の弟子達の多くの失敗の記録は、私達を慰め、励ます。私達は、成功談ばかり聞くと、自分と違ふと思ひ、がっかりする事が多い。しかし、聖書の価値は旧約聖書の神の人と言われる人物や新約聖書の弟子達の失敗の記録が正直に記されている事である。その人たちの失敗や弱さの中に、自分自身の姿を見ることが出来る。この聖書を神が与えて下さり、私たちが読める事を心から神に感謝したい。失敗談も聖書が真実に伝えている事を深く感謝したい。神は、完璧な人だけを愛されるのではなく、弱さと欠点のあるパーフェクトでない私達を愛されると分かる。また、聖書の人物の失敗の箇所から、自分への教訓を学べる。成長し続ける人とは、失敗を反省し、失敗から学び、次に生かし続けている人である。

IV 弟子達を愛をもって叱られる主

主は、弟子達の恐れ惑う姿を目にされ、その信仰の足りなさを叱られた。彼らは、主と一緒に舟に乗っていた。そこへ、嵐が訪れ、弟子達は、困難に直面した。私たちの人生も同じである。私達の人生の船の船長は主である。困難の無い人生はない。舟は水浸しになり、弟子達は、しばらくすれば、舟は沈没するに違いないと心配し考えた。できる限りの事をしたが、望んだほどの効果は得られなかった。今、私達は、似たような状態にあるかもしれない。主は、舟の中で平然と眠り続けておられる。弟子達は、主に近寄って主を起こし、「先生、私たちは死んでしまいます」：24と言った。「イエスは起き上がり、風と荒波をしっかりとつけられた。すると静まり、凧になった」：24。この主の叱責のことばを注意深く観

察したい。主は、すっかり気が動転している弟子達を叱られた。「あなたがたの信仰（偉大な主への信頼）はどこにあるのですか」：25。自分がいっしょに舟に乗っているのに、弟子達が動揺し、恐れ、狼狽しているのを叱責された。1. ここに、私たち一人一人に適用すべき大切な教訓がある。周囲の状況がどうであれ、主を信頼する者は、決して不安におののく必要はない。すべての困難も支配しておられる主と共に生活しながら、心配に支配される必要はない。キリスト者は、困難だけを見て動揺するのではなく、困難な状況の中でも共におられる主を見て信頼し平安を得る。主を信頼している者は、主を信じていない人の様に、動転したり失望したりしない。キリスト者は、未信者が持っていない「主ご自身への信頼」を持っている。獄中にいたパウロは、多くの試練を経て養われた信仰でこう確信を持って断言している。「私、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。…私は、私を強くしてくださる方（復活の力強い主）によって、どんなことでもできるのです（どんな辛い境遇にも対処できる）」ピリピ4：11-13。主を心から信頼する者は、自分の感情、フィーリングにより、困難な中でも衝動的に動かされない。主を信頼する時、御霊の實の自制（自分の不安定な感情を制し、安定した主を信仰の目で見る）が与えられる。弟子達の問題は自制力を失ったことにある。その為、彼らは、みじめな気持ちになり、幸福感を失ってしまった。今の私達はどうだろうか？自制心を失ったために、力強い主が私達の人生という舟の中におられるのに、嵐に会い、気が動転し、慌てふためいているだろうか？

2. 慌てふためいた弟子達から学ぶ、第二の教訓は、主への信頼と確信のなさである。主は、「わたしがいっしょにいるにもかかわらず、あなたがたは、どうしてこれほどまでに動揺するのか。わたしを信頼しないのか」と諭される。私達の動揺と狼狽には、すべてを支配しておられる主への信頼の無さが伴っている。主が私達に関心を持ち、見守って下さるという信頼が欠如している。そこには、全責任は自分にあり、一人でこの困難を乗り越えなければならないという思いが支配している。主は、無関心だ、神であっても、できるはずがないと不信仰になる。今の試練の中でこそ、全能の主を信頼し、祈りたい。

3. 聖書全体は、信仰には試練が付きものであると教えている。且つ、主は、試練の中で共におられ、支えて下さると。ヘブル11章に出て来る人物は、一人残らず試練を経験し、信仰が成長した。まず神から約束が与えられ、その後、一切の状況が悪化して行くように思われた。ノア、アブラハム、ヤコブは試練に直面した。モーセには特に長い忍耐の試練が与えられた。私達は、神が支配されている人生にも、信仰が試みられる様な困難は皆あるという事を自覚して歩みたい。嵐や試練は偶然ではなく神の御支配の中にある。私たちの頭では、すぐには理解できないが、神は、すべてに意味、目的を持っておられる。主イエスは言われた。「世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました」ヨハネ16：33。主は、正直に私達に語り掛けておられる。「この世で生きる中では、あなたがたに苦難があります。しかし、失望してはいけません。わたしは、すべてのものに勝利しています。そのわたしが、あなたと共にいて、あなたを助けます」と。

4. 主への信頼、信仰は、自動的に働き出すものではない。「あなたがたの信仰はどこにあるのですか」：25と主は言われた。これは「なぜ、せっかく、持っている信仰（全能の主への信頼）をこの試練の場面でこそ用いないのですか？」という意味。すべき事：①困難な状況に身を任せない。②この試練の中でこそ、その試練をも支配しておられる主への信頼という信仰を活用し、現実逃避ではなく状況全体を見据え、全能の主が共におられ支えて下さる事を信じよう！私達は、決して人生を投げ出さない、あきらめない！主を見上げよう！あきらめずに、全能の神に祈り続けよう！自分の分、人の分、協力する分、神の分を示されるように祈り求めよう。「いつでも祈るべきで、失望してはいけない」ルカ18：1